

技術部報告 第9集発刊に寄せて

技術部長 河田 康志
理事（研究担当、IT 担当）・副学長



鳥取大学技術部は、化学バイオ・生命部門3分野（機器分析分野，生物化学分野，組織解析分野）、情報システム部門2分野（情報基盤技術分野，情報処理技術分野）、工学技術部門3分野（機械加工技術分野，装置開発分野，社会基盤技術分野）、生物生産管理部門3分野（乾燥地科学分野，生物生産管理分野，森林資源利用分野）の4部門11分野から構成されています。所属する約60名の技術職員は鳥取地区（地域学部，農学部，工学部）、米子地区（医学部，附属病院）、浜坂地区（乾燥地研究センター）の3地区のほか、岡山県と鳥取県の県境に位置する教育研究林蒜山の森などキャンパス外の附属施設にも配属され、鳥取大学が行う教育や研究、地域貢献の事業に対し幅広く支援を行っています。

医学、工学、農学の実習教育の現場では、学部が掲げる教育目的を達成できるよう、これに係る技術職員は意識を高く持ち、日々の地道な作業をこなしています。また、研究支援の現場では、鳥取大学の特色である乾燥地科学研究や染色体工学・創薬研究等において、教員や研究者とコミュニケーションをとりながら、成果が得られるよう取り組んでいます。

国立大学の現状を見ますと運営費交付金の削減は広く知られるところであり、鳥取大学においても高額な設備機器の共用化だけでなく、研究支援に係る人材の共用化および高度化が重要な課題として挙げられています。そのため、鳥取大学技術部は今年度からの取組みとして、東工大が主催するTCカレッジに人材を送り、高度な機器の運用スキルや設備機器および人材の共用化に向けたマネジメントスキルなどを学ばせてきています。

令和4年8月には鳥取大学と米子高専が主催し、中四国地区国立大学法人等技術職員研修を開催しました。工学、農学、情報に係る中四国の技術職員が参集し、専門分野の実技と共通分野の講義を受講しています。共通分野の講義では宇宙開発に係る研究者の講義を受け、幅広い研究分野や人材によって成り立っていることを知り、大いに刺激をうけた様子が見られました。

今回の技術部報告では上記のような取組みの中で、技術職員一人一人がどのような意識を持って業務に取り組んでいるのか知っていただくとともに、技術部への理解を深めていただきたいと思います。どうぞご理解とご協力を承りますようお願い申し上げます。